



弁護士深草徹の「ここがポイント」

## 「こんな人たち」の反撃

深草 徹



7月7日から10日にかけて実施された世論調査の結果が、一斉に発表されました。いずれも、内閣支持率の急落、不支持率の急騰を示しています。とりわけ時事通信の調査では、内閣支持率は30%を切っています。

安倍首相は、東京都議選最終日の7月1日夕方、秋葉原駅前での街頭演説で、「安倍辞めろ」「安倍帰れ」と声をあげた人たちを指差し、「こんな人たちに負けるわけにはいかない」と叫びました。今や、安倍政権退陣を求める声は、国民の多数派の声であることが、はっきりしてきたようです。

安倍政権は特定秘密保護法、安保法制、共謀罪など、わが国を戦前に回帰させる悪法を次々と強行可決し、森友学園、加計学園をめぐる政権スキャンダルの解明にフタをしてきました。独裁政権は自ら腐朽するといいますが、閣僚や政務次官、自民党議員のスキャンダル、失態、暴言、失言が相次いでいます。

その上に、憲法9条改悪への妄執です。もはや何をか言わんや、ですね。

「こんな人たち」の反撃で、「こんな、とんでもない安倍内閣」を早期退陣に追い込もうではありませんか。  
(九条の会.ひがしなだ共同代表、深草憲法問題研究室主宰、2017年7月15日記)

## 私の戦争体験 谷家勇雄さん語る

### 加害の歴史を忘れてはならない

7月22日(土)東灘区民センターにおいて、九条の会.ひがしなだの「私の戦争体験」を語る会が開かれ、西岡本在住の谷家勇雄さんが「安倍政権の戦後レジームからの脱却ということで再び戦争をする国へという動きが強まる中で、しかも人口の過半数以上の方々が戦争の体験を持たないという時代になってきたことの中から、少しでも語ることがあるなら」と自らの幼少時代から、戦後「満州」から引き揚げてからの苦難の体験を語られました。

2歳の時に家族と「満州」ハイラルに渡った谷家さんは、7歳の時に、ハルビンにて敗戦。北満から南下の避難集団のなかには、幼児を現地に残していかざるをえない母親がいたような悲惨な状況だったこと。1年後、日本へ引き揚げるときの苦難、引き揚げ後は兄や姉と別れ、四国の今治～山口の防府～神戸へと親戚を頼って移り、神戸で電電公社に就職したこと、1960年の三井三池争議、安保反対闘争にも参加したことなどを話されました。そして、太平洋戦争の犠牲は、日本人310万人、アジア人2000万人であり、戦争の被害が強調されるが、日本の加害の歴史を忘れてはならないと強調されました。



## 対案は“護憲”だ！！

西田雅年

自民党は2020年までに、「憲法改正」を目指しています。

「改正」するのは、憲法九条に自衛隊を位置づける「加憲」論、「緊急事態条項」の創設、などとされています。

このうち憲法に「緊急事態条項」を規定すべきか否かを巡って、先日（7月8日）、兵庫県弁護士会主催の討論会が、神戸市内で開催されました。非常に聴き応えのある論戦でした。

その中で私は、改憲派の言う「緊急事態条項」が何故必要なのか、という点に注目していました。しかし、その根拠は明確ではなく、説得力はありませんでした。

今の憲法が施行されて70年ですが、現行憲法のままで、何の不都合も、重大な問題も発生していないからです。反対派の言う、「法律で定め、訓練を積んで準備しておけば、十分対応できる」、「準備していないことは、できない」という原則に納得しました。

「改正」する側が、憲法を「改正」すべき説得的な理由を挙げない限り、変える必要は、ありません。「憲法改正」の議論に、「対案を出せ」は関係ありません。

対案は、「現憲法のまま」となります。

（弁護士、中神戸法律事務所、2017年7月10日記）

### 平和随想

## 「あったことを、なかったことにする」

～安倍首相の「上書き」に注意！！～

小南浩一

「官邸の最高レベルが言っている」と書かれた文科省の内部文書の存在を認めた前川喜平・前文科事務次官は、「あったことを、なかったことにはできない」と記者会見で述べていた。

過去に自分が述べたことと現在の発言の整合性に、全く無頓着な安倍首相は、「あったことを、なかったことにする」名人だ。そのために彼が用いる手法が、いわゆる「上書き」だ。例えば、戦後50年の村山談話の上書きが、「戦後70年の安倍談話」である。「侵略」と「植民地支配」の主体がぼかされ、加害責任が曖昧にされた。さらに、「私たちの子や孫」以下を、「あの戦争には何ら関わりのない」世代と位置づけ、謝罪の打ち止めを謳っている。

「加計・森友」疑惑を消すために、安倍首相は今後、外交をはじめとする様々な「上書き」パフォーマンスを展開するであろう。しかし、国民は安倍首相以下、政府がやったこと（特定秘密保護法の制定、集団的自衛権の行使容認、それに基づく安保法制や共謀罪の強行採決等々）を、「上書き」されても、決して忘れないことが肝要である。「記憶することだけが民衆の唯一の武器」なのだから。

（兵庫教育大学大学院教授 2017年7月4日記）

## 平和行進

# 「歓迎！」コールで平和行進を

井上 超

平和行進には、学生時代からお祭り気分での参加だったが、7月8日の京都市内網の目平和行進（桂川～京都市役所）は、「核兵器の無い世界を目指す」人類史の確かな一歩を実感できた、記念すべき行進になった。

「禁止条約 歓迎！」と肯定形でのピースコールが、実に爽快。これは、前日の7月7日、国連本部での核兵器禁止条約の採択を祝してだ。「日本政府は批准せよ！」と命令形。命令しているのは世界の国々なのだ、安倍将軍は世界の笑いものだ、共謀罪など笑い飛ばし、世界中と手をつなごう。

沿道の人や白衣にすげ笠の修行僧（？）も加わる。猛暑、適度な疲れ、条約採択の実感にカタルシスがこみ上げ、目頭が熱くなる。ゴールの京都市役所まで1<sup>km</sup>地点で、突然の暴風雨がすべてを洗い流す。100メートル先も見えない。天もスコールで歓迎だ。

「核兵器全廃歓迎！」のコールで、平和の喜び分かち合う年中行事＝平和行進・・・教科書がそう語る日にも、歩き続けたい。帰り道、鴨川に掛かる虹を見た。

(いのうえとおる、西宮市在住、京建労)

## 九条の会訪問記（その57） 甲東平和を考える会

### 九条の会より前から活動

### 「平和と暮らしを考えよう」と

甲東平和を考える会が、「九条の会」を名乗らないのは、「九条の会アピールが出る前から活動してきた」との自負心から。1989年にガイドライン法案が国会に提出され、不安を感じた甲東地域（阪急「甲東園」駅周辺）の住民で、会を結成しました。

申し合わせ事項には、「平和と暮らし（環境、経済、文化、教育、権利、法律、行政、政治）について、時々の問題を考え、行動を通して憲法を暮らしに生かし、より健康で豊かな街づくりをめざし、草の根市民運動として取り組みます」と明記。以来、2か月に1回のペースで学習、講演会を開催するほか、署名宣伝やアピール行動などにも熱心。2007年6月結成の「九条の会」西宮ネットワークでも、中心的な存在となっています。

多彩な活動がウリで、たとえば、原爆孤児や沖縄問題では、現地調査にもたびたび参加する中学教員を招いて、現地の動向を聞くほか、学校教育現場の様子も同時に学びます。

また、独自の宣伝カーを運行して、各種行事への参加を呼び掛けるなど、集客にも熱心で、参加者数の多さでも目立っています。



# 8月15日

公庄れい

8月15日、この日に特別の感慨を持つ人の数は、年々減っていることだろう。夏休み中のその日、12歳の私は、学校へと向かっていた。南海電車高野山駅までの4里の道を歩いて、和歌山県立橋本高等女学校の寄宿舎にたどり着いた時には、「正午に大事な放送があるから必ず聞かねばならない」と言われた時間は、とっくに過ぎていた。

上級生はみんな泣いていた。私はホッとした。ただただホッとした。頭の上に覆いかぶさっていたものが、スッとなくなったように感じた。

その翌日から、寄宿舎と隣り合った炎天下の運動場に、本や書類が山と積み上げられて燃やされた。それは何日も続き、どこからこんなにたくさんの物が出てくるのか、子供の私には不思議に思えた。

加計学園や森友学園関係の資料が燃やされてしまったということは、ないと信じたい。

(孫たちの将来を案じるおばあちゃんの会)

## 催し案内

兵庫の「語りつごう戦争」展の会

8・15平和のつどい

日時：8月15日(火) 13:30～

場所：妙法華院本堂(2階)

DVD上映

講演：核兵器禁止条約と日本の役割

講師：富田宏治・関西学院大学教授

資料代：500円

主催：兵庫の「語りつごう戦争」展の会

連絡先：078-575-2608(妙法華院内)

九条の会かわにし 結成12周年記念講演会

日時：10月8日(日) 14:00～

場所：川西市中央公民館

演題：安倍改憲に、いかに立ち向かうか  
～九条改憲は戦争への道～

講師：渡辺治・一橋大学名誉教授

参加費：500円

連絡先：072-794-3320

カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6

番号 0217129

名義 九条の会. ひがしなだ



★安倍政権の暴走と「劣化」ぶりを見ていると、「終わりの終わり」が、実感に近い。「こんな人たちが」に憲法を弄ばれては、たまらない。急ぎご退場願います。(T)

★「国連会議」で人類史上初めて核兵器を違法化する核兵器禁止条約が国連加盟国の約3分の2の122カ国の賛成で採択されました。日本政府はこの会議に参加していません。世界で唯一の被爆国の政府は、世界の笑いものになっているでしょう。(N生)

編集後記